

2/1 **企** カミオカラボの整備が評価される
企業版ふるさと納税活用で大臣表彰

企業版ふるさと納税を展示施設の開設に生かし、市内で盛んな宇宙物理学研究を広く伝えたことが評価され、2月1日に飛騨市が地方創生担当大臣表彰を受けました。特に功績のあった自治体や企業を国が毎年表彰しており、今年は本市を含む3自治体と2企業が表彰されました。

この日は、オンラインで開催された表彰式に都竹市長が出席し、企業版ふるさと納税を整備費に充てて評価につながった素粒子ニュートリノの観測装置「スーパーカミオカンデ」などを紹介する施設「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」について紹介しました。

都竹市長は「寄付をいただいた方々に感謝している。今後も企業と協働して地域の課題解決を図りたい」と話しました。



2/2 **河** 卒業証書を山中和紙で
合小6年生が恒例の和紙漉き

河合小学校の6年生児童7人が河合町角川のいなか工芸館で、各自の卒業証書に用いる山中和紙の紙すきに挑戦しました。800年にわたって受け継がれてきた山中和紙作りを体験することで、故郷を誇りに思う気持ちを育もうと同校で毎年行われている恒例行事。

児童らはこの日、山中和紙職人の柏木一枝さんから「材料が均一の厚さになったら水を切って」「枠に付いた材料を取り除いて」などと指導を受けながら、それぞれ2枚ずつ和紙を漉きました。

体験した畑菜花（まあや）さんは「原料をすくう時に厚さの調整が難しかったのですが、上手に出来ました」、松井楓真（ふうま）さんは「和紙作りはあまり体験できず、貴重だと思うのでやれて良かったです」と話していました。



2/5 **見** 「YCKプロジェクト」の今年度の取り組みを報告
つけた課題、自分の力で解決めざす！

吉城高校が進めている課題解決型キャリア教育「YCKプロジェクト」の今年度の取り組みの報告会が、同校で行われました。

今年は新型コロナの感染拡大を防止するため、学校関係者や生徒のみを対象に開催。また、各教室をインターネットでつなぎ、動画で報告を行いました。生徒らは取り組みの中で分かった事や感じた事などを自身の言葉で説明。問題解決力や判断力、コミュニケーション力が向上して自分の強みになり、自信につながったなどと紹介しました。

発表した渡辺瑛斗（えいと）さんは「将来のことをあまり考えていなかったのですが、活動を通して地域の人からいろいろな話を聞け、具体的な事が分かって良かったです」と話していました。



2/6 **土** 飛騨市まるごと応援セール 緊急物産展
産物等の売上が激減した事業者を支援

市では「コロナ禍」による観光客の激減で、売り上げが減少している事業者への支援と、土産物等の販売促進のため「緊急オトク宣言！飛騨市まるごと応援セール」緊急物産展を2月6日、市役所の駐車場で、約1,300人の市民らでにぎわいました。

会場には、コロナ対策が講じられ、入場の際の検温や手指消毒を行うとともに、混雑時は入場制限も実施されました。

この日は、市内の食品メーカーや卸業者など6事業者が出店され、来場者はお目当ての商品を手にし、袋や箱いっぱい買い求めていました。

また2月20日、21日には古川町と神岡町で第2弾の緊急物産展が2日間にわたり開催され、2日間で約2,500人の市民らが来場しました。





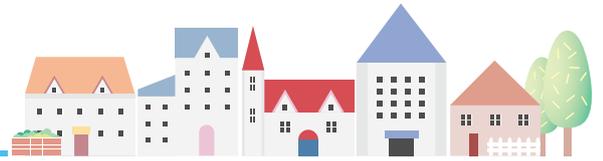
飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式Facebookで配信中。



2/14

お 市内広葉樹を活用したワークショップを開催 気に入りの樹種の木片で、しおり・コースター作り



木目の美しさや色、触感など、樹種によって異なる広葉樹の魅力を知ってもらうワークショップが2月14日、飛騨市図書館で開かれました。古川町太江で木工房を営む片岡清英・紀子さん夫妻からアドバイスを受けながら、葉っぱやペンギンなどをかたどったしおりやコースター作りを楽しみました。

この日は家族連れら約50人が参加し、あらかじめ用意されたサクラやブナ、ホオなどさまざまな樹種の木片を手作業に作業台へ。サンドペーパーでお気に入りの形にした後、イニシャルを刻印したり、電気ゴテでテントウムシやクローバー、サクランボなどを思い思いに描いて楽しんでいました。

神岡町から母親と訪れた倉野心希（ここね）さんは「かわいいコースターができました。これでお客さんにお茶を出したいです」と話していました。



2/16

飛 〔大多和（おおたわ）そば〕と〔万波（まんなみ）そば〕を新たに認定 飛騨市伝承作物認定式で認定証を授与

市内で古くから栽培されている作物を「飛騨市伝承作物」として認定し、広く発信することで伝承作物の地産地消や地域振興につなげようと活動している飛騨市伝承作物認定委員会（中矢正志委員長）が2月16日、今年度の認定式を行いました。

今回は神岡町大多和地区で栽培されていた「大多和そば」、宮川町万波地区で栽培されていた「万波そば」の2品目を認定。神岡町の欄宜洞きぬ子さんと宮川町の荒谷勇さんにそれぞれ認定証を手渡しました。

当日は、これらの種子の掘り起こしや保存活動に尽力した岐阜県中山間農業研究所の鍵谷俊樹所長が、種子を入手した経緯やそれぞれの種子の特長などを紹介。「こうしてお披露目することができて嬉しい」と話しました。



2/25

ふ 河合保育園で民話『つきをのんだむすめ』の紙芝居披露 るさとの止利仏師伝説を知って

2月25日に河合町角川の河合保育園で、同町に伝わる止利仏師伝説を主題にした民話『つきをのんだむすめ』の紙芝居のお披露目がありました。

地域に伝わる昔話などを後世に広く伝えて郷土をより深く知ってもらうと市が進めている事業の一環。この日は、語り部として活躍する同町の田口理子さんが来訪。山中和紙を用いた台紙に、同町の吉澤好一さんが制作した切り絵の写しを張って手作りした紙芝居を丁寧に演じました。

当日は年少から年長までの園児13人が参加。紙芝居の絵を見入ったり、田口さんの語りに耳を傾け、真剣な表情で聞き入っていました。

田口さんは園児らに「お話を覚えて、お家の人に教えてあげてね」と呼びかけていました。



2/27

市 第3回荒垣秀雄顕彰作文コンクール表彰式 内の生徒児童が最優秀賞に選ばれる



神岡町出身の名誉市民・故荒垣秀雄氏の功績をたたえる「第3回荒垣秀雄顕彰作文コンクール」の表彰式が2月27日に神岡振興事務所で開かれました。

荒垣秀雄天声人語賞に岡田匠生（たくみ）さん（古川小学校5年生）と土田陽大（ひなた）さん（神岡中学校3年生）が選ばれ、表彰式では入賞者の皆さんに都竹市長から賞状と記念品が手渡されました。

都竹市長は「いずれも家族との思いにあふれた甲乙付けがたい作品ばかりでした」と講評し、引き続き「文章を書くことは人生を送るうえで大きな力になります。今後もこのコンクールを続け、飛騨市に優れた文筆家がいたことを語り継ぎたいと思います」とあいさつしました。

